

『派遣海賊対処行動航空隊(第54次)要員出国行事』

～隊員、隊員家族、支援団体の皆様で見送り～



発行：沖 縄 二 火 会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新 栄 印 刷

第5航空群からの海賊対処行動への派遣は、これで21回目となります。出発に際し、那覇航空基地で行われた出国行事では、来沖した自衛艦隊司令官代理 自衛艦隊司令部幕僚長(海将補川村伸一)をはじめ、外務省沖縄事務所沖縄担当大使や、海上保安庁第十一管区海上保安本部長のほか、第5航空群の隊員、自衛隊協力団体の関係者

るため、海上自衛隊第5航空群所属の隊員を中心に派遣海賊対処行動航空隊(第54次)要員(指揮官 澤畑2佐以下、約60名)が、海上自衛隊那覇航空基地を出発しました。

及び派遣隊員の家族などが見守る中、澤畑2佐が自衛艦隊司令部幕僚長に對して出国報告を行いました。

自衛艦隊司令部(海将 齊藤聡)からの訓示(自衛艦隊司令部幕僚長代読)では、「各人が自らの仕事に「誠実」に取り組む、任務の完遂にまい進してもらいたい。また、これまでの勤務を通じて蓄積してきた経験と海上自衛隊が組織として残してきた教訓を活用するとともに、柔軟かつ大胆な発想を持って、様々な試練や困難を乗り越え、海上自衛隊の歴史にその名を刻んでもらいたい。」と述べ、出国する隊員を激励しました。

出国行事の後は、派遣海賊対処行動航空隊(第54次)要員の任務の完遂と無事の帰国を祈りつつ、空港へ向かう隊員を見送りました。

第54次要員に対し自衛隊協力団体(沖縄二火会、沖縄県隊友会、沖縄県自衛隊家族会)から激励品が贈呈されました。



沖縄県隊友会 平田会長



沖縄二火会 佐久本会長



沖縄県自衛隊家族会 古門会長

沖縄の子供達に雪をプレゼント



はぐくみ児童クラブ

令和6年2月11日(日)から16日(金)にかけて、第5航空群では、沖縄県内(那覇市、糸満市、宮古島市、石垣市、与那国町)の児童施設や小学校の児童に対する「雪のプレゼント」が行われました。

この「雪のプレゼント」は、平成7年から行われており、第5航空群のP-3C哨戒機搭乗員が青森県八戸航空基地での寒地飛行訓練を終え帰投する際に、雪を持ち帰り、沖縄県の各市町村教育委員会を通じて近隣の小学校に寄贈したのが始まりだそうです。

令和3年及び令和4年は、コロナ禍のため、学校等を訪問することが困難でしたが、令和5年から再開され、今年で通算27回目となります。

この企画は、雪を見る機会がなかなか得られない沖縄の子ども達に、本物の雪を「見る」「触れる」という体験を通じて、子どもの感性を育むことに寄与したいとの思いから実施されています。

今年は、那覇市はぐくみ児童クラブ、糸満市糸満がじゅまる児童センター、宮古島久松小学校、石垣島名蔵小学校、与那国島与那国小学校(与那国、久部良、比川小学校全児童が与那国小に集合)へプレゼントされました。

雪の採取場である、青森県の八甲田山は、氷点下を大きく下回る寒さのためサラサラとした粉のような雪が降りまします。本物の雪に触れた子ども達は、その冷たさと珍しさに、雪をかけ合ったり、雪だるまを作ったりと大はしゃぎでした。

雪遊びが一段落したところで、子ども達から隊員に対し、「ありがとう」や「楽しかった」などのお礼の言葉とたくさん笑顔をお返しされ、参加した隊員はとても癒されています。今後とも、小学校、小児病院、児童館等へのプレゼントを続けて欲しいと思います。



がじゅまる児童センター



久松小学校



与那国、久部良、比川小学校

航空集団司令官からの感謝状贈呈



沖縄二火会 理事 与儀 哲治氏



令和6年1月23日(火)、沖縄二火会 与儀哲治理事の防衛基盤の育成に尽力した功績に対し、航空集団司令官(海将松本完)からの感謝状が贈呈され、第5航空群司令(海将補高田哲哉)から伝達されました。



「二十歳を迎えた隊員に対する激励会」について

第5航空群 前任伍長・海曹長 瀬戸口 明宏



令和6年1月26日(金)、海上自衛隊那覇航空基地において、二十歳を迎えた隊員に対する激励会を実施しました。

今年度は、13名の隊員が二十歳を迎えることとなり、群司令に対し「服務の宣誓」が行われ、自衛隊の存在意義をより一層強く認識しました。

群司令からは「二十歳になって周りから何をしてもらえるかを問うのではなく、何ができるかを問うてもらいたい。海上自衛隊の将来は、諸官の双肩にかかっている。」との訓示が述べられ、南西海域に所在する第5航空群の隊員として身の引き締まる思いがしました。

その後、各協力団体から激励品をいただきました。

二十歳を迎えた隊員を代表して、第5整備補給隊鍋田

彩乃から「この日を迎えることができたのは周囲の支えがあったからこそであり、感謝の気持ち忘れずに自衛官として少しずつ恩返しをしていきたい。また、日本の平和と独立及び安全に寄与すべく、一自衛官として微力ながらも力を尽くしていく。」との謝辞があり、激励会を終えました。

激励会後は、会食を実施し、二火会会長をはじめとするご来賓の方々と楽しいひと時を過ごすことができました。

激励会後は、会食を実施し、二火会会長をはじめとするご来賓の方々と楽しいひと時を過ごすことができました。



着任挨拶



那覇航空基地隊司令 2等海佐 中正 輝

令和6年4月1日付、

那覇航空基地隊司令として、第24航空隊(徳島県小松島市)副長から着任した中(なか)と申します。

私は、回転翼操縦士として、これまで回転翼機が所在する各航空部隊や第51航空隊、航空集団司令など勤務して参りましたが、このため、沖縄での勤務は初めてとなりますが、初の沖縄勤務をとても楽しみにさせていただくとともに、安全保障上の要衝となるこの地で勤務することに身の引き締まる思いです。

はじめ、沖縄二火会をはじめ、沖縄海友会、沖縄県防衛協会、沖縄県隊友会、沖縄県自衛隊家族会、沖縄県自衛隊家族会の支援団体の皆様、また地域の皆様には平素から第5航空群、那覇航

空基地隊に対するご理解とご支援を賜りまして御礼申し上げます。

さて、私が所属する那覇航空基地隊は、海自那覇航空基地の基地業務を担当しています。第5航空群の任務達成のため、那覇航空基地隊の隊員一人一人が「自己が果たすべき役割を自覚」し、さらに部隊として一致団結し同じ方向を向いて業務に邁進していく所存です。また、今後、基地業務を行う上で、種々の困難や障害も想定されますが、これらを一つずつ乗り越え、明るく活気に溢れる国民の皆様から信頼される部隊づくりに努力して参ります。

結びとなりますが、皆様の益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、那覇航空基地隊に対する今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。私の着任の挨拶とさせていただきます。



第5航空群「音楽の夕べ」を開催



令和6年1月21日(日)、那覇市パレット市民劇場において、海上自衛隊佐世保音楽隊の演奏による第5航空群「音楽の夕べ」が行われました。

開演に先立ち、第5航空群司令(海将補高田哲哉)からは「海上自衛隊佐世保音楽隊の演奏を聴きながら皆様との交流を更に深めさせていただきたいと思います」と思っております。本日は一緒に楽しめよう。」との挨拶があり、佐世保音楽隊長(一等海尉高野賢一)指揮のもと、第1部が始まりました。

吹奏楽では有名なオーブニング曲からオリジナル作品等の趣向を凝らした様々な曲が演奏され、とても素晴らしい演奏に観客も聴き入っていました。

第2部は、ポップなステージで、各楽器のソロ演奏やヴォーカル歌唱などが組み込まれていました。沖縄の曲「ダイナミック琉球」や日本の歌「さくらさくら」をアレンジした「チェリーチェリー」が演奏され、来場された皆様も手拍子で盛り上がりつつありました。そしてアンコールでは、沖縄民謡の「芭蕉布」「唐船ドリー」で会場を沸かせ今回の演奏は終了しました。来場された方も満足そうに顔をほころばせて会場を後にされていました。

この演奏会は、毎年この時期に第5航空群が主催し佐世保音楽隊の協力を得て実施されています。



令和5年度第5航空群 消火栓操法競技

令和6年2月29日(木)、海上自衛隊第5航空群において令和5年度消火栓操法競技が行われました。



この競技は、基地で火災が発生した場合に備え、消火栓の扱い方及び火災の消火法に習熟するため、毎年この時期に実施されています。

各隊の予選競技を勝ち抜いた代表が、日頃の訓練で培った技能を競います。

競技では、消火栓からホースを繋ぎ、火災に見立てた標的を水圧で倒すまでの時間とホースの展開方法、指揮官の適切な指示、号令等が採点されます。また、今回の競技では、建物内で火災が発生した場合を

想定し、標的の前にポールをクランク状に配置して行われました。

競技は、那覇航空基地隊から始まり、第5整備補給隊A(電整隊)、第5航空隊、第5航空群司令部、第5整備補給隊B(補給隊)の順に計5個チームが実施しました。競技の結果は、那覇航空基地隊が減点なしの100点で優勝しました。表彰式の後、優勝チームの指揮官は隊員の前で、「今までの訓練の成果を発揮でき、皆様の協力のおかげで優勝できました。」とあいさつしました。



「美ら島エアフェスタ2023」



令和5年12月10日(日)、航空自衛隊那覇基地において「美ら島エアフェスタ2023」が開催されました。

今回は、航空自衛隊「ブルーインパルス」の飛行展示もありたくさんの来隊者で賑わいました。

来隊された皆様は、航空機の展示やスタンプラリーなど、様々なイベントを楽しんでいました。海上自衛隊第5航空群も、P-3Cの地上展示、航空自衛隊航空機との飛行展示、広報ブースでの制服試着等を行い、海上自衛隊のPRを行っていました。また、特設ステージでは、第5航空群軽音楽部員によるバンド演奏も行われ「楽しい海上自衛隊」をアピールしていました。



練習艦隊

那覇新港に入港



令和6年3月29日(金)から31日(日)にかけて、那覇新港第2クルーズバースに練習艦隊(司令官海将補西山高広)が入港しました。

練習艦隊が、那覇新港に入港するのは、約9年ぶりで、入港に合わせ、各種関連行事が行われました。

練習艦隊は、初級幹部に対し、艦上における訓練作業を通じて、部隊勤務に必要な基礎的事項を習得させ、シーマンシップの体得や艦内生活への慣熟、初級幹部としての素養を育成統率すること等を目的としています。

今回の来航練習艦隊は、練習艦「かしま」、護衛艦「さわぎり」、掃海母艦「うらが」、の3隻で、入港時には、沖縄二火会をはじめとする地元協力団体等による入港歓迎行事が行われました。招待者等への特別公開が護衛艦「さわぎり」



那覇新港を出港した練習艦隊は、引き続き近海練習航海を続け、その後の遠洋練習航海で諸外国を周ります。遠洋練習航海では、慣海性を涵養し、幹部自衛官としての必要な資質を育成すること、諸外国との共同訓練を行い、国際感覚を涵養すること等を目的としています。



うちなんちゅ(沖縄出身)隊員紹介

第5航空群司令部 3等海曹 儀間智(宮古島市出身)



私が海部で勤務後、海士通信課程へ上自衛隊に入隊し、修業後は、沖縄県那覇市にある第5航空群司令部の指揮通信班で勤務しています。通信という業務は、自衛隊に入隊するまで経験したことがなかったため、部隊でうまくやっていけるのかと不安でしたが、部隊の先輩方の優しい指導もあって、今は不安なく通信業務に従事できています。

私は、入隊前までフリーター生活をしておりましたが、年齢を重ねるにつれて、将来に不安を感じていました。その時、自衛隊の入隊対象年齢が引き上げになったことを友人から聞き、思い切つて入隊しました。教育隊では、年齢が離れている同期が多くおり、集団生活になじむことができた不安でした。しかし、共に厳しい教育を乗り越えていくことで絆が深まり、教育隊を修業する頃には年齢差など関係なく冗談を言い合えるような仲になりました。

教育隊終了後は、鹿児島県鹿屋市にある第1航空群司令



移動局無線検査(周波数測定)

また、地元の沖縄で勤務できたことで、昔からの友人と会う機会も増えたため、プライベートも充実しています。入隊して約4年経ちますが、まだまだ分からないことが多くあります。先輩方に追いつけるよう、これからも日々の業務に動んでいきたいと思っています。

第5航空群クラブ活動紹介

軽音楽部 軽音楽部部长 3等海佐 阿部和嗣

自衛隊には、仕事後の余暇の時間を利用して活動する運動部及び文化部があります。

このコーナーでは、第5航空群のクラブ活動について紹介していきます。

第10回目となる今回は、文化部として新しく結成された「軽音楽部」について紹介します。

「第5航空群軽音楽部」は、各種イベント等において、音楽を通じ「楽しい海上自衛隊」をPRしていきたいという趣旨に賛同した隊員6名で、結成されました。

昨年度は、8月の航空自衛隊那覇基地の「サマーフェスタ」



でのバンド演奏に始まり、10月には、海上自衛隊第5航空群創立51周年記念行事でのバンド演奏と陸上自衛隊第15音楽隊の演奏に合わせた歌唱、12月には、航空自衛隊那覇基地「美ら島エアフェスタ2023」でもバンド演奏を披露しました。演奏した曲は、バラエティーに富んでおり、エイサー部とコラボした「ダイナミック琉球」や若者に人気のある曲などを披露しました。

演奏の後には、観客の皆様から大きな拍手をいただき「楽しい海上自衛隊」のPRに貢献できたと思います。今後も積極的に活動して「楽しい海上自衛隊」をアピールし、軽音楽部の活動が自分たちの「楽しみ」だけでなく、海上自衛隊の広報につながるよう頑張っていきたいと思っています。



海上自衛隊那覇航空基地見学に際して

沖縄二火会理事 新垣淑豊



沖縄二火会の理事を務めています。沖縄県議会議員の新垣淑豊です。普段は定例会で隊員の皆様と交流し、様々な自衛隊行事にも参加させていただきます。

自衛隊活動に対する理解と認識を深めるための周知を行うことも二火会の重要な役割の一つであり、その一環として令和6年3月6日に、9名で自衛隊那覇航空基地見学を行いました。

受け入れてくださった隊員は定例会などでお会いする和やかな雰囲気とは違う姿であり、ほとんどが初めて基地見学に参加するメンバーからは「素敵！カッコいい！」との声や、我々の見学対応に数多くの隊員が関わっていたに感謝と感激の声がありがとうございました。

はじめに、司令部庁舎において高田群司令から、海上自衛隊の国内外における活動内容や沖縄を取り巻く防衛環境についてわかりやすく説明いただきました。有事の際に、普段から活動していない場所での防衛や救難活動は難しいという旨のお話

が非常に印象的でありました。

現在の沖縄県政は、離島の港湾整備に対し、特定港湾施設整備事業を活用しての整備に非常に消極的です。しかし、万が一のことを想定し、普段から自衛隊の艦艇が訓練などで停泊できる港湾を整備することの必要性を沖縄県議会を通して伝えていかねばならないと改めて強く思いました。

その後の航空機見学でも機体を大切にし、綺麗に整備されている様子に参加者全員が関心していました。短い時間でしたが、基地の中を實際に見て、自衛官から直接に話を聞くことの重要さを共有できたことは非常に良かったです。体験喫食の食事にも美味しくいただきましたが、今回の見学は水曜日ということ、メニューがカレーではなかったことが一つ心残りですので、次回以降の見学の楽しみにしたいと思います。

最後に、お忙しい中ご対応いただいた群司令をはじめ第5航空群隊員の皆様に感謝を申し上げ、皆様の今後のご健康とご多幸を祈念いたします。本当にありがとうございます。



海上自衛隊 職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介します。

今回紹介する職種のほかにも、航空管制員や調理員、経理員など、多数の職種があり、全33職種で約50種類の業務が行われています。

その中から今回は、第5整備補給隊電子整備隊で戦術情報処理器材班員として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

① 仕事内容

② 将来の目標

③ これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ



テストベンチでの整備作業

航空電子整備員・第5整備補給隊 電子整備隊 戦術情報処理器材班

島袋士長

① 『P-3C型航空機に搭載する電子機器(以下「電子機器」といいます。)の整備をしています。特に、航空機から取り下ろした電子機器をテストベンチ(電子機器の良否判定を診断する試験器)に接続し、動作確認を行うとともに、要すれば機器の中に組み込まれたモジュール(電子部品が組み込まれた基盤)に対し、ハンダを使用した修理も行っています。』

② 『電子機器の整備は、配線図を読み解く知識やハンダで細かい配線を繋ぐ技術が必要です。求められる知識や技術は高く、日々学ぶことも多いですが、1つ1つの作業ができるようになるたびに大きな「達成感」を感じています。また、今の私では困難な整備もたくさんありますが、先輩方が優しく教えてくれるので、一日でも早く先輩隊員に追いつけるようになります。』

③ 『私は高校生の頃、地方公務員で事務作業に携わる仕事を目指していましたが、縁があり自衛隊に入隊し、今の職に就いています。当時はどちらかというと工業関係の仕事には全く興味がなく、むしろ苦手としており、配属当初は、あまりやりがいを感じることはできませんでした。しかし、先輩方に教わりながら作業をするうちに、楽しさや、やりがいのようなものを感じはじめ、今では、この職に就いてよかったと思っています。この記事が皆さんの入隊のきっかけになることを願っています。』



モジュール修理

年頭行事



令和6年
1月10日
(水)、第5

航空群では年頭行事が行われました。年頭行事とは、年の初めに部隊等の長が訓示を行い、隊員の士気の高揚を図るとともに、今年の航空安全を祈願しつつ部隊として初めての訓練飛行などを行う行事です。

第5航空群司令(海将補高田哲哉)は、年頭訓示で「インド太平洋地域の最前線たる沖縄で、我々第5航空群の活動が、画竜点睛を欠くといったことのないよう、各員一層奮励努力して職務の完遂に努めてもらいたい。」と述べ、隊員の士気を鼓舞しました。

隊員たちは、第5航空群司令に対して初訓練飛行の開始報告を行い、「美ら海の防人」として空から日本の海を守るための訓練に臨みました。



那覇航空基地自衛官ファミリー



- ⑤ お互いに一言！
(感謝や要望等)
- ④ 同じ基地内で勤務しての感想
- ③ 出会った場所(部隊)
- ② 出身地
- ① 職種(仕事内容)

質問事項

このコーナーでは、海上自衛隊那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。第7回目は、第5航空群司令部で勤務する原田1尉と第5整備補給隊で勤務する原田3曹の原田夫妻の紹介です。

第5航空群司令部 原田夫妻 第5整備補給隊



- ① 【夫】 戦術航空士／総務班長兼副官(現配置)・・・私の専門職種は、P-3C哨戒機に搭乗し、警戒監視などの任務で戦術判断を行う戦術航空士です。現在は、第5航空群司令部で総務班長兼副官として勤務しています。副官とは、指揮官が重要な判断に専念できるよう、その庶務を行う民間企業でいう、秘書のような仕事のことです。
- 【妻】 航空武器整備員・・・私は、現在第5整備補給隊第5武器整備隊の救命器材班で勤務し、主にP-3C哨戒機に搭載する救命装備品の保守整備等を行っています。救命装備品とは、航空機の緊急時に、搭乗員の生命を守るための器材であり、落下傘、ゴムボート、救命胴衣(ライフジャケット)、耐水服等があります。
- ② 【夫】 島根県 【妻】 鹿児島県
- ③ 2人とも那覇航空基地で勤務しているときに、共通の知人の紹介で会いました。結婚したのは、お互いが昇任し、公私ともに落ち着いてからです。
- ④ 【夫】 同じ那覇基地内でも、お互い違う職種で勤務場所も違うので、ほとんど職場で会うことはありません。ですが見かけたときは必ず手を振ってくれて、少し恥ずかしさもありますが、それ以上に安心感を与えてくれます。これは、妻が普段から私の支えになってくれているからだと思います。仕事中にこういった励みをもらえるのは同じ基地内ならではの感じています。
- 【妻】 私は、4年間の保育士勤務を経て自衛隊に入隊しました。夫の方が自衛隊歴が長く、仕事や基地内などの自衛隊に関することをたくさん知っているため、職種は異なりますが、困ったことがあればすぐ教えてくれるのでとても頼もしい存在です。
- ⑤ 【夫から妻へ】 どんなに帰りが遅くなってもいつも笑顔でおいしごはんを用意して待っていてくれてありがとうーその笑顔とごはんで毎日活力をもらっています。ひとつ、お願いするのなら、お肉は好きだけれどもうちよっとお魚も食べたいです。(笑) こんな旦那ですが、これからもよろしくお願いします！
- 【妻から夫へ】 夫には、感謝の気持ちでいっぱい입니다。いつも仕事終わりに私の大好きなアイスを買ってきてくれてありがとうー今は、忙しい配置で大変ですが、大好物のハンバーグとプリンを作ってくれているのでこれからもお仕事頑張ってください。

第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊 第5航空隊において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

「初機長フライト」とは、操縦士・航空戦術士が、初めて機長として航空機に搭乗して運航するフライトのことです。初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、各段階

の検定をクリアし、機長として飛行作業に臨むに相応し、知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、搭乗員人生の中で一つの大きな節目とも言えるフライトになります。

10月19日の飛行作業は、いつもの飛行作業とは異なり、初めて機長で飛ぶことの喜びとともに、機長としての重責を感じるフライトとなりました。戦術航空士としての上空における一つ一つの小さな判断でさえも、普段のフライトでは感じるような大きな責任を感じました。機長として判断に迷ったときもありましたが、クルーの助言を得て適切に判断することができ、改めて飛行作業というものは一人で行っているのではないと実感することができました。

今回無事に初機長フライトを終えることができたのは、これまで指導してくださった先輩方、家族及び同僚等たくさんの方々の支援、応援のおかげであると感じています。

今後、機長として飛行作業に従事する場面が多くなると思いますが、クルーに信頼される機長を目指して今後も精進して参ります。

初機長フライト当日、P-3Cに向かう際には、小月航空基地(山口県下関市)に所在する第201教育航空隊で経験した初めてのソロフライトの緊張感を思い出しました。これまでの訓練で教官から受けた様々な指導や一緒に訓練飛行を経験してきたクルーのおかげで、地上滑走を開始する頃には、緊張感が和らぎ落ち着いた気持ちでフライトに臨むことができました。那覇に着陸し、司令以下多くの隊員の出迎えを受け、ようやく飛行隊幹部としてのスタート地点に立てたと実感しました。今日に至るまで多くの方から支援をいただけたこと、また昼夜を問わず共に任務に従事する仲間感謝しつつ、今後も術科技量の向上に精進していきます。



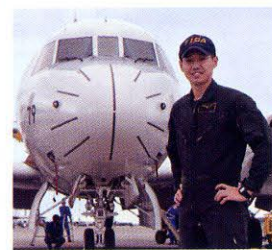
令和5年10月19日(木)
初機長フライト

第5航空隊第52飛行隊所属
2等海尉 仲摩 洋



令和5年10月24日(火)
初機長フライト

第5航空隊第51飛行隊所属
3等海尉 森 瑠華



令和5年11月2日(木)
初機長フライト

第5航空隊第52飛行隊所属
2等海尉 後根 将男



令和5年12月14日(木)
初機長フライト

第5航空隊第51飛行隊所属
1等海尉 浅海 篤輝

初機長フライト当日、起床して出勤するときは少し緊張感がある程度でしたが、後輩と事前ブリーフィング、プリフライト、隊長及び司令への出発前報告をしていく間に、機長になった喜びを実感するとともに緊張感が増えていったことを明瞭に覚えていきます。

那覇を離陸しエリアに向かいましたが、訓練エリアの天候はあまり良くなく、また、上空では航空機の不具合も生じました。機長としての判断が迫られ迷っていたとき、助けてくれたのは先輩を含めたクルーでした。改めて機長の責任の重さを感じた瞬間でもありました。上空では一人ではないことを認識しました。その後は不具合も治り、安全に那覇へ着陸し初機長フライトを終えることができました。無事に終えることができたのは先輩方、後輩、飛行作業に携わってくれた方々及び家族のお陰であり、感謝しています。今の技量に満足することなく、日々向上心を持って邁進していきます。

初機長フライトは天候にも恵まれ、自らの手で操縦する航空機で美しい沖縄の空を飛行する感動とともに、これから国防の最前線で機長として諸任務に従事していく覚悟を新たにしたフライトとなりました。これまでの任務飛行や訓練飛行における諸先輩方のご指導や飛行作業を共にした各クルーのサポートもあり、終始落ち着いて初機長フライトに臨むことができました。

那覇着陸後、司令をはじめ飛行隊の先輩・後輩、また家族にも温かく迎えていただき、無事に初機長フライトを終えた安堵と喜びを改めて実感することができました。今後は第5航空隊の戦力となれるよう、さらなる術科技量の向上を図るとともに、諸先輩方のような真に頼れるパイロットを目指して引き続き精進する所存です。



第5整備補給隊 伊波3曹

防衛省・自衛隊では、国産水産物の消費拡大を図る取り組みを実施しています。この取り組みに対し、海上自衛隊では「艦めしーふーど」の名称で国産水産物を使用した料理を積極的に取り入れています。

第5航空群では、令和5年11月に、国産「かんばち」等をメインに使用したにぎり寿司7種盛りを提供しました。日本近海で獲れた旬の「かんばち」は、脂がのつていて口の中ですとろけました。



12月には、沖縄県産のまぐろと海ぶどうに北海道産ホタテを使用した海鮮丼を提供しました。新鮮なまぐろとホタテの旨味に、「プチプチ」と口の中ではじける海ぶどうの食感、まさしく「海産物の宝石箱やう。」と叫びそうになるぐらい、美味しいものでした。

第5航空群では、SNS(X・Instagram)で「艦めしーふーど」に関する投稿を実施しています。ぜひSNS(X・Instagram)もご覧いただきフォローをお願いします。



基地・防衛モニター行事

令和6年3月22日(金)、第5航空群において基地モニター会議、令和4年度基地モニター終了式、令和6年度基地・防衛モニター委嘱式が行われました。

基地モニターとは、基地周辺住民の海上自衛隊に対する意見や要望等を聴取し、各地域に密着した広報活動を推進するとともに、部隊等における諸施策の改善・向上に資することを目的とした海上自衛隊の制度です。

また、防衛モニターは、海上自衛隊のみではなく、陸・空自衛隊を含めた防衛省・自衛隊に対する基地モニター同様の活動をする防衛省の制度です。

基地モニター及び防衛モニターは、それぞれ2年間の任期で各種行事等への参加等を行い、意見を提出します。

今回の基地モニター会議では、令和5年度の第5航空群の広報活動実績等について報告が行われたのち、基地モニターからの各種提言に基づき、第5航空群の広報のあり方等について様々な意見交換が行われました。

基地モニター会議終了後は、令和4年度基地モニター終了式及び令和6年度基地・防衛モニター委嘱式が行われました。

委嘱式において、第5航空群司令(海将補 高田 哲哉)からは、「我々とは違った視点で、自衛隊の組織や活動に対し、活発にご意見を提示していただくとともに、沖縄における海上自衛隊の認知度の

向上や、募集広報についてもご支援及びご協力をお願いします。」との挨拶がありました。

新たに委嘱された基地・防衛モニターには、モニター制度及び第5航空群概要の説明、航空機見学が行われ、海上自衛隊の理解促進のための第一歩を踏み出しました。

なお、第5航空群では毎年、基地モニターの募集を行っており、例年11月頃に公表されています。詳しくは第5航空群ホームページをご覧ください。



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会
事務局 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

■ 第5航空群広報室
那覇市当間 252
5aw-5230@ext.mso.mod.go.jp
☎ 098-857-1191 (内 5231)

編集協力委員

首席幕僚	佐 1
広報室長	佐 3
群司令部	尉 1
5 空	曹 1
5 整備隊	尉 1
那 空 基	尉 3
広 報 室	曹 長

北 原 1
土 橋 3
杉 原 1
小 笠 1
笠 原 1
山 川 1
高 田 3
今 村 曹

※2023.2.5「沖縄二火会」WEBサイトを公開しました。(https://okinawa-nikakai.com)

※「でいご122号」は、令和5年12月から令和6年3月までの行事等を基準に掲載しています。